



## 一東北生産性本部一

# 平成30年度労使定例政策研究会 第3回例会

## 「人工知能は天使か悪魔か ～人類と AI の近未来～」

平成30年度労使定例政策研究会 第3回例会は、株式会社感性リサーチ 代表取締役の黒川 伊保子 氏を迎え、約30名の参加を得て開催いたしました。

### ■平成30年11月7日開催

講師 株式会社感性リサーチ 代表取締役 黒川 伊保子 氏

#### プロフィールなど

人工知能研究者／脳科学コメンテーター、感性アナリスト、随筆家

1983年 奈良女子大学理学部物理学科 卒

人工知能研究者、脳科学の見地から「脳の気分」を読み解く感性アナリスト。

「市場の気分」を読み解く感性マーケティングの実践者であり、「男女脳の気分」を読み解く男女脳論の専門家、「ことばが脳にもたらす気分」を読み解く語感分析の専門家でもある。人工知能（AI）エンジニアを経て、2003年ことばの潜在脳効果の数値化に成功、多くの商品名の感性分析にも貢献。

### 【ご講演概要】

#### ○男女脳の違い

男女の話は、方向が真逆。女性は、ことの発端からプロセスをなぞるように話す「プロセス指向共感型モデル」。ことの経緯をしゃべると、無意識の領域で問題解決演算が走り出す。

男性は結論（目的）から前倒しにする「ゴール指向問題解決型モデル」、話の途中でもすばやく問題点を見つけ出して解決せずにはいられない。

#### ○人口知能には何ができるか

「人が想像することは何でもできる」

人工知能は、脳の認識特性をコンピュータ上にシミュレーションして、携帯端末や家電、車、ビルや工場のコントローラに実装していくテクノロジー。「今できること」は限られていても「未来できること」は無限。

#### ○人工知能は人間を超えるか

「もちろん超える」

機械が人間を超えるのは当たり前（力持ちなら、ブルドーザーが人間を超えている。計算力なら60年前のコンピュータが既に人類を超えている）。



○人工知能に仕事を奪われるか

「奪われる仕事はある」

人工知能は、「定型業務を緻密にこなす」「新規事例に整合性のある判断を下す」「ちょっとした気づき、工夫」が得意。つまり、この世の仕事の多くを代替できる。しかし、増える仕事も数多くある、増える職種もある。

○人工知能に人は支配されるか

「現在の AI にその可能性はない」

現在の脳認識特性の実装では、自我や生存本能は生まれない。

○AI という新ツールで私たちが解放されること

危険な作業、過酷な作業の軽減

○ディープラーニングにおいて、最も重要なのは失敗の与え方

失敗を楽しめない人生はうまくいかない。

失敗は脳にとって、最高のエクササイズ。脳は、失敗によって要らない回路への電気信号を抑制し、「本質を知る直感の回路」を太くする。「勘のいい、頭のいい、センスのいい」脳を創るには失敗が必要不可欠。

○失敗 3 か条

失敗は他人のせいにはしない、過去の失敗をくよくよ思い出さない、未来の失敗をぐずぐず言わない

○人間の学習機会が奪われる

「勘」や「センス」を手に入れるには、失敗は必要不可欠

AI は定型作業を引き受け、現場の失敗を劇的に軽減する天使だが、これに甘えたと企業は人材育成の機会を逸してしまう。あえて、AI をしりぞける英断が経営者に求められる。

○人工知能は、天使にもなり、悪魔にもなりうる

「何をさせるか」よりむしろ「何をさせないか」

以上、大変有意義なご講演ありがとうございました。

### 平成30年度 労使定例政策研究会

\*会場：東北電労会館 2階 大会議室

第4回：平成31年 2月 1日（金）14時30分～16時30分

『働き方改革に伴う法改正と運用の留意点』

講師：三島法律事務所 弁護士 真田 昌行 氏